

# TEC安全委員会ワークショップ報告！

TECの今期より安全研究委員会が増設され、新事業としてワークショップ第一弾が、7月31日（水）18時～20時、千代田万世会館 に於いて開催されました！

今回のテーマは、

**“緊急事態！重篤災害根絶の術！！”**

**～どうしたら怪我をしないの？墜落しないの!？  
と質問されたらどのように答えますか？～**

## 趣旨

今年に入ってから私共の業界で、頻発している墜落死亡災害

TEC安全研究委員会としましては、組合員、賛助会員の企業に対し、警鐘を鳴らすべく、再発防止を呼び掛けるためのワークショップを行いました。



開催挨拶を行うTEC日吉理事長

## **セミナー概要**

今年に入ってから、都内で立て続けに墜落死亡災害が発生しています！

これは単なる偶然では済まされない状態であり、まさに緊急事態ととらえなければなりません。

TEC 安全研究委員会としましては、組合員、賛助会員の企業に対し、災害が発生しないよう、経営者、作業員一丸となって災害防止を真剣に考えなければならない時期に来ていると思っています。

当ワークショップは、死亡災害事例の発表、改善事例検討はもとより、参加者全員で意見交換を行います。



**【講師】**

**東京外装メンテナンス協同組合 理事 安全研究委員長  
株式会社グランドマスタークルー代表取締役 本多正彦**

災害発生は、単なるヒューマンエラーではありません。

ヒューマンエラーは、それを取り巻くシステムのエラーがファクターであることを認識しなければなりません。

現場に従事する各社スタッフだけで、再発を防止できるものではありません。

作業を行うにあたり、絶対に落ちない！落ちようと思っても墜落しないといった作業動線や屋上の作業環境改善はもとより、組合企業においては、システムの見直しと再構築が最重要課題ととらえます。



講義を行う本多委員長

実際に死亡災害が発生した企業の協力をいただき、その災害事例をもとに解説を行うとともにヒューマンエラーとシステムエラーについて、2005年に発生したJR福知山線の事故や、2008年の護衛艦あたご漁船清徳丸衝突事件などをケーススタディーとすると、システムエラーの内部にヒューマンエラーが存在すると思わずにはいられないわけで、いくら作業者の教育を対策として行ってもそこには自ずと限界があり、作業者にだけ安全対策を求めることは、場合によっては大きな負荷をかけていることにすぎないのではないのでしょうか？

また教育と一言でいっても、果たしてその教育が意を得ているものなのか？教育システムをもう一度見直す必要があるのではないのでしょうか？

作業環境の改善には建物オーナー、や元請け企業との協議が必要で、そこには大きなエネルギーが必要ですが、作業者が事故を起こそうと思っても起こせないような環境を整備することが最重要課題と思うのです。と、自説を展開。



**TEC安全研究委員会 三原委員の司会でワークショップは進みます。**



**興味深く聞き入る受講生！**

興味深い講義内容に、受講生の皆さまは、真剣に聞き入ります。

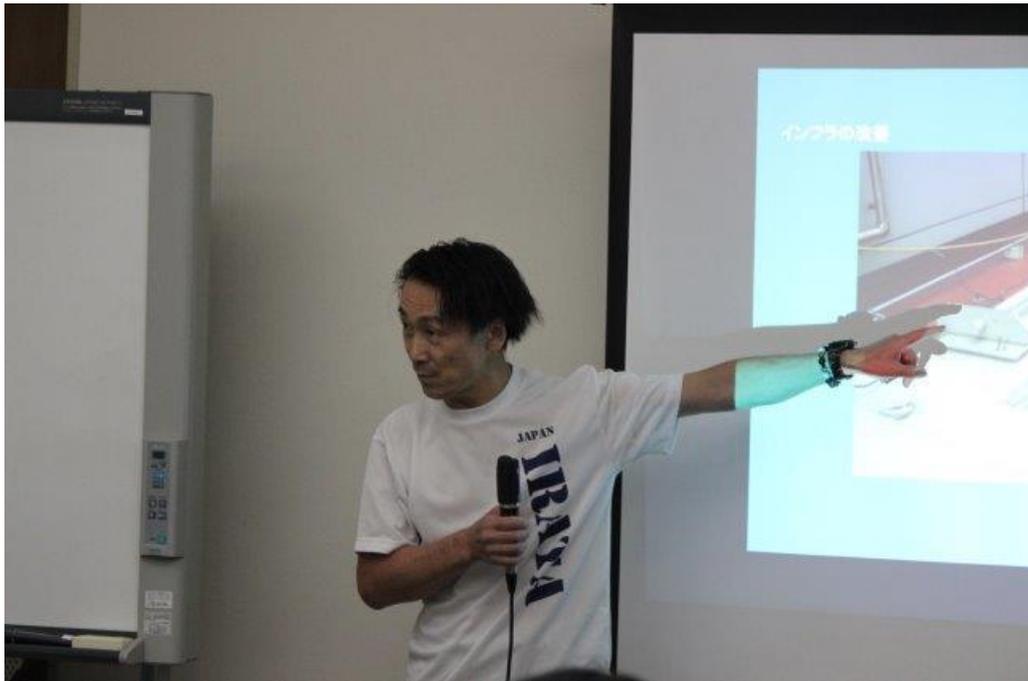
休憩をはさみ、TEC安全研究委員会 樫山副委員長のリードで、ワークショップはクライマックスをむかえます。



討議を捌く安全研究委員会 樫山副委員長 写真中央



参加者も、質問、疑問をぶつけます！  
白熱した意見交換が展開されます！！



国際ライセンスを保有する、安全のプロ！(株)FTG福原代表取締役も黙ってはられません！



オレにも言わせろ！と登壇したのは、我々業界において、安全教育のエキスパートである当組合大山専務理事



**ワークショップ終了の挨拶を行うTEC受注委員会 茂木委員長**

終了時は、TECの受注委員長 茂木理事より皆様にご挨拶をいたしました。  
当ワークショップは、多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了となりました。

安全研究委員会ワークショップは今期、第2部を開催予定です。次回も多くのご参加をお待ちしています。

**東京外装メンテナンス協同組合**